一般財団法人永頼会 松山市民病院広報誌 Matsuyama Shimin Hospital

えいらい

No.63

令和７年６月発行
発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院

初夏号 2025

日本医療機能評価機構 認定第 JC300 号

〒790-0067
愛媛県松山市大手町２丁目 6-5
TEL ／ 089-943-1151
FAX ／ 089-947-0026
発行責任者／理事長 山本祐司
編集／松山市民病院広報委員会

永頼フェスティバルでの鏡開きの様子（愛媛県県民文化会館 真珠の間）

今号のトピックス

◇巻頭言
◇臨床の現場から
◇新任医師のご紹介
◇財団設立60周年永頼フェスティバルを開催
◇命を守る力を地域に-『おでかけミーティング＋』で広がる研修の輪
◇愛媛県薬剤師会・病院薬剤師会表彰を受けて
◇新人職員研修で松山城を散策
◇連携医療機関の紹介
◇お知らせ

副院長を拝命するにあたり思うこと

副院長　木村 真士

この度、副院長という大役を引き受けさせていただくこととなりました、外科・緩和ケア科の木村です。当院には現在の専攻医的な立場で 1995 年から２年３ヶ月間お世話になり、その後、2001 年 11 月から現在まで外科医として臨床に携わってきました。また 2009 年から緩和ケアチームの代表的立場も務めており、さらに 2024 年 4 月からは緩和ケア病床を立ち上げ、悪性疾患終末期の患者さんを中心に緩和ケアの実践もさせていただいております。副院長を拝命するにあたり、私が思う患者さんやご家族とのコミュニケーションの重要性についてお話したいと思います。

皆様もご経験があると思いますが、患者さんやご家族との間に信頼関係がある場合には、疾患に対する治療がスムーズに行え、トラブルになることが少ないと感じます。このように患者さんとの信頼関係を構築することが診療において非常に重要だと実感しています。そして、信頼関係を築くためにはコミュニケーションが大事だと思います。初めて患者さんやご家族に接した時から信頼関係を構築する過程は始まると言われています。最近はカルテが電子化されたために様々なデータがパソコンの画面上に存在するようになりました。そのため診察する際に電子カルテの画面ばかりを見て、患者さんを見ないことが増えていると感じます。さらに、医療機器の進化により患者さんに触れることなくバイタルサイン等を把握することも可能となりました。患者さんに接する機会が減り、患者さんとの距離が遠くなり、ひいては患者さんやご家族に不信感を抱かせ、信頼関係の構築の障害となっているようにも思います。このため医療者は自身の五感を使いながら患者さんと向き合い、患者さんの目を見て話すことが重要ではないかと常々思っています。

私がコミュニケーションの重要性を強く感じるようになったのは終末期の緩和ケアに従事するようになってからです。終末期の患者さんは様々な苦痛を抱えているため悲観的だったり、感情がうまく出せずに攻撃的になったりすることもあります。このような場合、患者さんの目を見て、患者に触れて（そばにいて）、話をするということだけで患者さんに安心感を与えることができ、また患者さんが落ち着きを取り戻し、以後の症状緩和が行いやすくなることを何度も経験しました。

患者さんやご家族との関係性は医療を提供する上で非常に重要と感じています。昨今、日本も訴訟大国となり医療訴訟も増えています。患者さんやご家族との関係を良好に保つことが医療訴訟の回避にも繋がり、治療効果の上昇にも繋がると思います。

臨床しか知らない私のようなものに副院長という大役を務めることができるのか、大変不安ではございますが、誠心誠意頑張っていきたいと思いますので、何卒ご指導並びにご鞭撻の程よろしくお願いいたします。